



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



学校だより



ためし

○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える



令和7年10月3日号 文責 上久木田 雄二



少子社会の健全

「少子化が招いたもの」の3回目です。

そもそも健全とはどんな意味があるのでしょうか。検索すれば、

1. (身体・精神などが) すこやかで異常のないさま。
2. 片寄らず堅実なさま。あぶなげなく確かなさま。

と説明されています。

一つ目は何となく想像ができる意味だと思います。私が大切にしたいのは、二つ目の意味が示す「健全」なのです。

現代社会は情報にあふれ、フィルターバブルやエコーチェンバー現象と言われる偏った情報のみを受け取る仕組みができてあがっています。

超情報化社会の中では、自分に都合の良い情報が真っ先に目の前に何度も現われます。

都合の良い意見に対する賛成意見を信じざるを得ない環境に、知らず知らずに陥ってしまうのです。

自分が気をつけていても、自分だけは大丈夫だと思っていても、つつい信用するのは都合の良い方になるのです。

片寄らず、あぶなげない確かさを身に付けることが大変難しい世の中であることに自覚的でなければいけません。

子どもを健全に育てるための環境は、各家庭ごとに違うはずですが、それなのに多くの情報に惑わされたり、一時のSNSでのやり取りの方を信じ込んだりすることはありませんか。

子どもは大切に守られ育まれる権利があります。その基準は家庭です。私はこれを「家訓」と呼んでいます。

我が家は我が子を、このような大人に育てたい

という思いがあるはずです。その思いのほとんどは、「片寄らず、あぶなげない確かさ」の中にあるはずです。経験を積んだ大人が、我が子の成長のためを思って考えた対応は「健全」であると思っています。健全な大人への足掛かりとしての声かけをしているはずです。

「自らの人生をかじ取りする力」は、荒波や帆の破損を経験させるごとに、健全に育っていくものだとは私は信じています。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

